



# 全国連合退職校長会

# 会報



巻頭言

## 組織の力を活用して

副会長 (近畿地区)

久保 英志

私が所属している兵庫県中学校退職校長会の行事に、現職校長会役員と退職校長会役員との懇談会があります。コロナ禍ではありましたが昨年は何とか実施することができました。現職校長会からは、現在の中学校現場の様子や課題等の報告がありました。その中で、特に私が驚いたのは、教員の定数配置ができていない学校が多数あるとの報告でした。二学期も残り一月余りという時期でも、生徒数に応じた教員の配置ができていないというのです。何ということでしょう。現場の先生方は、不足している教員の分も補うべく、必死で頑張ってくださっているのです。これは「働き方改革」以前の問題ではないでしょうか。

私はこうした報告を聞いて、学校現場への支援を退職校長会として組織的にできないかと考

えているところです。現在はずでに、学校長が個人的に退職校長に声をかけ、学校支援に入っていた例や、週に何回か、初任者研修に入っていた例もありません。ただ、いまだに教員不足が解消されていないのが現状です。

教員不足等の大変な状況にある学校現場に対して、教育委員会も様々な施策を実施しているとは思いますが、こうした問題は、国が抜本的な改革を進めなければ、なかなか解消できないのではないかと思います。

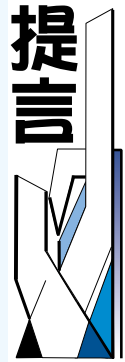
近年、教員不足になっている要因としては、教員養成大学の受験倍率の低下、教員採用試験の受験者の減少等があげられますが、結局は、教員という職業に魅力を感じる若者が少なくなっているということではないでしょうか。このような現象を考

や公教育の充実を図る一方で、教育という営みの素晴らしさと大切さを積極的に発信することが急務だと思われれます。この苦しい現状を打破するために、私たち自身が何らかの行動を起こすべき時だと考えています。

ここ数年、退職校長会の組織も例外ではありませんが、様々な組織において高齢化が進み、加入者の減少や会員の退会が増えています。コロナ禍だけがその要因ではないと思います。

私たち退職校長会の組織は、各都道府県の校種別退職校長会、退職連合会、地区連絡協議会などが、全連退という全国組織へとつながっています。そこで報告・提案・協議された内容は、最終的に文部科学省等に代表者が要望・意見として伝えることになっていきます。教育現場の様々な課題の解消についても、こうした私たちの組織の力をしっかりと活用することが大切だと考えています。

このような退職校長会の存在意義を再確認し、さらに活性化を図ることが、今、私たちが取り組むべき喫緊の課題ではないかと思っています。



## 「会の魅力」に全力を

副会長 (東北地区)

木村 幸治

全連退会報第226号「都道府県だより」の徳島県の記事に驚きました。徳島県退職校長会から徳島市と鳴門市が退会したとのこと。組織の危機です。

新型コロナウイルスは5月8日感染症法上の5類に移行してきました。これにより今迄制限されてきた諸々を考えれば新年度は活動を充実するチャンスです。コロナはありますので適切な感染対策をしての活動が重要です。

退職校長会の充実は、従来の在り方にこだわらず柔軟に、「魅力は何か」「入会してよかった」と言える「魅力」を全力で再検討し会員と認識を共有することです。その根幹は会員の存在感・有用感を基本にした研修会等と会員相互の支え・繋が

りです。直接交流を大切にし教育に係る研修会や懇談会を知的好奇心が湧くように工夫する。懇親会を楽しく交流が出来るようににする。会員数の減少よりもむしろ入会率を90%台にする等の方策です。会員の慶弔、特に弔意は大切にすることです。岩手では参加しやすい研修会や懇親会を工夫実践しています。年

4回の会報での情報交流を密にし、現職校長会との連携を大事にしています。更には県本部と地区会のデジタル化です。オンラインで会員と様々な交流が出来るようにしたいです。

東北地区会は年一回の大会で研修・懇親会が中心ですが有意義です。東北の仲間を支えられていることが大きな励みです。

全連退は各県退職校長会と連携を深め「いざ!」に備えた動きをしてほしいです。例えば定年延長制については退職校長会への加入は、「校長役職定年時(特例は別途)」にする等情報交換等が欲しいです。目に見える信頼と支えが大事です。

## 部活動の地域移行から

副会長 (関東甲信越地区)

松井 和夫

群馬県退職校長会は11月に16年連続となる「教育の日推進大会」を地域連携をテーマに開催し、「今後の部活動の方向性について」と題した講演では、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」の概要内容などを聞く機会を得ました。既に報道でご承知とは思いますが、令和5年度以降、中学校の休日運動部活動は段階的に地域移行を進め、その後、新たなスポーツ環境のもと、地域スポーツクラブや民間事業者などの運営団体に任せる部活動改革です。実

校の働き方改革推進及び教師の負担軽減の両方が実現できる重要な改革であることと理解しました。その後、12月に実践研究事例の報告をもとに多くの課題から実現期間を3年間にこだわらない姿勢も示されましたが、スポーツ指導のシステムを変えていく画期的な施策で段階的にも実現を図って欲しいと思っています。

現後の運動部活動はどの中学校においても必ず設置・運営されるものではなく、学習指導要領への位置づけが抜本的に見直されるとしています。学校単位の部活動に限界が見える状況を変え、持続可能な部活動と学

次に、文科省が給特法見直しに向けて論点整理を始めたこと報道されています。給与体系と労働時間が現状と見合っていない状況の改善や教職調整額が注目されています。

この給特法見直し検討の論点と部活動地域移行の課題は多岐にわたりますが、この機会を逃さずに全連退は意見等をまとめて要望をしていく必要があります。現職校長会と現職教員を応援することで、退職校長会の存在感とこの会の必要感を示すことが大事と考えます。





東海北陸地区

期日 10月31日(月)  
会場 静岡県教育会館  
出席者 32名

協議内容

協議第1「退職校長会の会員と会員のつながりを大切にした活動について」

・各県は、それぞれ会員の親睦を深めることを第一義とし、総会や親睦会を実施しているが、コロナ禍にあつて思うような取組ができない状況にある。

・会報の編集委員の増員、内容や企画の改善に取り組んでいる。三重県では、「子供たちに伝えておきたい戦争中の体験」を特集し、歴史学習の資料として各学校にも配布している。

協議第2「退職校長会と現職校長や学校とのつながり(学校支援等)を大切に活動について」  
・各県とも現職校長会との定期的な協議会や懇談会を開くとともに、「学校支援ボランティア」



会長 池田富夫

活動に取り組んでいる。富山県では県教育委員会との協議会を通して県の取組を把握し、要望活動も積極的に行っている。  
全国連合退職校長会への要望  
・文部科学省をはじめ関係機関への要望活動を充実させ、教育環境の改善(人的・物的支援)に一層努力してほしい。特にIT関係には新しい取組が必要になる。  
静岡県からは、全連退のホームページを情報交換の場となるように、また、スクールカウンセラーの配置については法の改正を含めて充実をお願いした。  
(文責 静岡県退職校長親和会)



秋田県退職校長会の活動状況

秋田県退職校長会

事務局長 米澤 喜彦

本会は、鹿角、大館北秋田、能代市山本郡、男鹿市、秋田市、由利本荘・にかほ、大曲仙北、横手市、湯沢雄勝の9都市退職校長会の連合機関であり、会員数は1270名である。

各都市退職校長会が、それぞれ特色ある独自の活動をしており、県としては各都市との連絡・連携を密にし、会員相互の研究並びに親睦を図ることが大きな目的の一つである。

この目的実現のため実施している主な事業は、5月の「理事会・総会」、7月の「郡市会長・事務局長合同の会」、10月の「秋季研修大会」の三つである。理事会・総会に関しては、今年度も含めて、3年間書面決議という形での実施を余儀なくされる。

ている。しかしながら、各都市の協力のおかげで、会の成立に至っている。

郡市会長・事務局長合同の会も2年間は書面での情報交換のみであったが、今年度は、一堂に会して開催することができた。また、感染防止に気を配りながら懇親会も開催し、久しぶりに親睦を図ることができた。

秋季研修大会も2年間延期を余儀なくされていたが、来賓への案内は遠慮し、会員のみでの大会とはなったものの、懇親会も含めて一堂に会して開催することができた。

本研修大会は、「退職後の生きがいや在り方を求めて」という研究主題のもと、会員同士の親睦を図りながら長寿社会に対応した生き方を学ぶものであり、講師を招いての講演と各都市からの発表(割り当てに沿って)という二本立てで進めている。

令和5年度は通常通りの事業ができることを心より願っている。

## 関ブ口地区埼玉大会を終えて

埼玉県退職校長会

会長 石田 孝作

令和4年10月、第51回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会埼玉大会を深谷市で開催した。

コロナ禍の中、当番県として年度当初より感染状況等に一喜一憂する日々が続いたが、10都県の役員、幹事の皆様に多大なご支援ご協力を賜り、無事開催する運びとなった。

第1日目は、開会式に続き、共通の研究協議題「今、退職校長会に求められている事は何か、存在感を高める組織的活動への取り組み―コロナ禍を乗り切り、デジタル化に対応し会員相互の理解と絆の深まりを目指して―」を基に協議や意見交換を行った。主な課題として①入会率の低下と退職校長会の魅力のあり方、②世代間デジタル化の違

いとそれに関わる対応、③定年制の変化に伴う組織的活動の工夫改善等、今後に向けて貴重な情報交換ができた。協議会終了後の懇親会(夕食会)ではコロナ感染防止に留意し、「10都県物知りクイズ」等を行い親睦を深めた。

第2日目は、NHK大河ドラマ「青天を衝け」で放映された「日本資本主義の父」渋沢栄一氏に関わる記念館、旧渋沢邸(中の家)を見学した。

2日間の研究協議会のまとめとして、ご来賓の全国連合退職校長会川井事務局長さんより、「協議題がそれぞれの退職校長会が抱えている共通課題であり、また、ここ2年間開催できなかった、各都県の皆様の熱い思いが相まって、熱気に溢れた充実した研究協議会であった。」等々、ご指導を賜りました。関ブ口埼玉大会を終え、本会

では現在、その成果を生かし、新たな時代に対応でき、さらに魅力ある退職校長会を目指した事業改善に鋭意取り組んでいるところである。

## つながりを大切に

富山県退職校長会

会長 結城 正斉

コロナウイルス感染拡大により、二年間中止を余儀なくされた総会、理事会、県教委や現職校長会との懇談会を、本年度は規模を縮小しながらも行うことができました。

総会は、過去二年間は書面決議でした。会員の減少や諸費用の高騰、定年延長等の問題も多く、対面で協議できたことはとても有意義でした。

また、現職の校長会長と懇談会も行うことができました。学校現場の生の声を聞くことで、悩み等を実感を伴って理解する

ことができます。そこで出た事柄について教育委員会と懇談します。これからも教育委員会、校長会と連携を図りながら、学校の先生方や子供たちが元気になるためのお手伝いをしていこうと思います。

よく「退職校長会に入会するメリットは何か」と聞かれます。そんな時は、「現職の時も、校長同士のつながりを大切にしてきたと思います。悩みを相談したり情報を共有したりすることで問題を解決できたこともあるのではないのでしょうか。校長職を経験した者同士のつながりは、退職後も大切になりたいものです」と答えています。

人のつながりは、ポストコロナの時代においては、今まで以上に大切になってくると思います。会員相互の深いつながりを一層図り、魅力ある退職校長会にしていきたいと思えます。

## 三つの活動を大切に

岐阜県退職校長会

会長 加藤 卓

信長祭りをご存じでしょうか。信長に扮した木村拓哉氏のおかげで全国から人々が殺到し、『岐阜』の地名が一気に広がりました。その岐阜で県退職校長会も様々な活動に力を入れてきました。そのうちの主な三つの活動について紹介します。

一つ目は会員数の増加を目指す活動です。現在の会員数は二千百名ほどです。新加入の七十六名を加えて少し会員数が増えました。また、令和三年度中に亡くなられた会員もおられますが、総じて亡くなられた方は、日本の平均寿命よりご長命の方が多く、大変嬉しいことです。本会としてもやりがいや生きがいをお大切に、会員のボランティア活動や、学校の支援活動を今後も継続していきます。

また、新規加入者については、コロナ禍でできなかった先輩会

員からの顔をつき合わせた働き掛けを大切に、支部の役員の方々と力を合わせて新規加入者への働き掛けを進めます。

二つ目は機関紙「彩雲」をさらに充実させることです。今回「彩雲」は二〇〇号を数えましたが、年に三回の発刊ですから、いかに長い間彩雲が大切にされてきたかがわかります。コロナ禍ですますます重要になりました。そこで今年は編集委員を二名増やし、六名として企画や運営の工夫改善に重点をおいています。

三つ目は総会の開催です。過去二年続けて総会ができませんでしたが、今年は何としても総会を開こうと知恵を出し合いました。感染を防ぐため参加者を半分にするとともに、内容も厳選し、午前中に終われるようにしました。懇親会はできませんでしたが、総会が開けたことで互いの絆を確かめることができ、参加者に喜んでもらえる会になったと思います。

## コロナ後の活動を考える

大阪府立学校退職校長会

(春秋会) 会長 和田 良彦

大阪府立学校退職校長会は、大阪府立の高校、支援学校を退職した校長等からなる組織で、創立五十八年を迎えています。本会は春秋会と名乗りますが、総会を春と秋に開催することを由来としています。本会の主な

活動は、総会に加え、会報の発行(年二回)、研修会等となっています。また、同期会の開催や有志によるクラブ活動も行っています。

コロナ感染によりここ二年間の活動は、会報の発行に留まっていました。また、会報の近況報告の欄を通じて、会員に情報交換の場を提供することができました。令和四年度はコロナ対策が浸透する中で、春・秋とも対面での総会を開催することができました。春の総会では、大阪府教育長を講師に招いた研修会を、秋の総会では懇親会を実施しま

した。また、美術クラブでは、ギャラリーで展覧会を開催し、この数年間に会員が創作した絵画や陶芸、写真などを展示しました。

こうして活動は通常に戻りつつありますが、これまでの活動に加え、現場の校長をサポートする取組みを加える必要があるのではないかとという問題意識を私は持っています。

府立学校では、管理職不足となっており、定年退職後も再任用校長として働き、退職校長会と現役校長会の両方に参加する会員が増えています。一方、五十歳前後で校長に就任する人も増えており、学校運営に悩んでいる人もいることも聞かれています。こうした現状を踏まえ、今後は学校現場に焦点をあてた研修会などの活動も必要ではないかと考えているところです。

役員一同で知恵を出し、新たな活動スタイルを創出していきたいと考えています。



## 「コロナ禍のもとで

高知県退職高等学校校長会

会長 濱田 治

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が日本において令和2年1月15日に最初の感染者が確認されてから、これまで本県退職高等学校長会（通称三楽会）の活動は大きく制約を受けざるを得なかった。

そのような中で、令和4年9月、3年振りに退職・現職校長交流会を開催することができた。この会では、令和5年度から導入予定の、定年の段階的な引き上げ、管理監督職務上限年齢制が主なテーマとなった。

本会では規約で会員を「退職高等学校長をもって組織する。」と定め「退職」という言葉を用いている。ところがこれからは、「校長職」は退くが、「退職」せずに「校長職」以外の正規職員として勤務し、定年年齢に達した年度末に「退職」するということになる。

このように「校長職」は退いたが「退職」はしていない方に、退職校長会として本会への入会案内を何時出すのかということ、を会として決めなくてはならぬ。

この新たな課題に直面している本会として、この制度変更を担当する県教育委員会の実務担当者から説明を受けるとともに現職校長会役員からこの制度変更についての考えを直接聞くことができたことは有益であった。現職校長からは、「校長職」を退いた翌年度に退職校長会に入会するようにしたらどうかという意見が大勢であった。

これらのことを参考に本会の対応を考えたい。

本年5月8日には新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類から5類に変更される予定との報道もある。令和5年度が、この目的である「三楽会発会の目標達成と会員相互の親睦を図る」年度となるよう取組を進めたい。

## ゆっくりと確実に一歩一歩

沖縄県退職校長会

会長 幸地 忍

沖縄県退職校長会には6つの支部があり、会員数は595人、賛助会員数143人（現職校長が任意で加入）です。

令和4年の夏は、本県の1日の新型コロナウイルスの新規感染者数が6千人を超える日もありました。

しかし私たちは、事務局・役員、の英知を結集した創意工夫で会運営をしてきました。その結果、スポーツ大会こそ中止になりましたが、それ以外の事業は計画どおり実施することができました。

これまで「教育の日の制定」要請活動を精力的に行い、全41市町村中32市町村に制定してもらい、全国的にも高い制定率になっています。未実施の9市町村（離島が7）へのはたらきかけを、地道に継続していきたいと考えています。

県独自で行っている「善行児童生徒表彰」は、県教委や小・中校長会等の協力の下、24回目を迎えることができました。自費参加にもかかわらず、与那国島、宮古島等の受賞者も参加しました。学校や家庭の「心の教育」をささやかながら支援していると自負しています。

また世界平和が脅かされている今、平和や戦争を考える講演会も実施できました。

「会報」は平成8年に創刊して今年度で27年目を迎えます。会の活動状況や会員の生の声を届けており、会員や賛助会員等が何らかの刺激を受けて今後のライフステージや生きがいづくりに役立ててくれたらと、願っています。

次年度も会運営の面では厳しい状況になると思いますが（コロナ禍、新規会員の減少等々）、背伸びすることなく地道に、ゆっくりと会の発展に努めていきたいと考えています。

令和5年度 文部科学省予算案

初等中等教育局関係の概要

会計部長 三上 裕三

政府は令和5年度の教育関係予算案を決定しました。以下、主として初等中等教育局関係予算のうち教職員定数改善等を中心に、その概況を報告します。

一 教師等の指導体制の充実と働き方改革の推進

〈義務教育費国庫負担金〉 (1兆5216億円) (201億円増) 公立の義務教育諸学校の教職員の給与費について都道府県及び指定都市が負担した経費の3分の1を国が負担する。

● 教職員定数の改善	+104億円 (+4808人)
● 教職員定数の自然減等	▲132億円 (▲6132人)
● 教職員配置の見直し	▲8億円 (▲350人)
● 国庫負担金の算定方法の適正化	▲18億円
● 人事院勧告による給与改定等	+255億円

(1) 少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備等

- 小学校における35人学級の推進 (+3708人)
- 令和5年度は第4学年の学級編制の標準を35人に引き下げる。 (+3283人)

- 教育課題への対応のための基礎定数化関連 (+425人)
  - (2) 小学校高学年における教科担任制の推進 (+950人)
- 優先的に専科指導の対象とすべき教科(外国語、理科、算数、体育)

(3) 学校における働き方改革の推進のための支援スタッフの充実  
○ 補習等のための指導員等派遣事業 (91億円)

① 教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の配置 (55億円)

二 GIGAスクール構想の着実な推進と学校DXの加速  
② 学力向上を目的とした学校教育活動支援 (36億円)

(1) GIGAスクール運営支援センターの機能強化 (33億円)

(2) GIGAスクールにおける学びの充実 (28億円)

(3) 次世代の校務デジタル化推進実証事業(新規) (10億円)

(4) 学習者用デジタル教科書普及促進事業 (18億円)

三 感染症対策の充実と学校健康教育の推進  
(1) 学校保健の推進と感染症対策の充実 (6.6億円)

(2) 学校給食・食育総合推進事業 (5.7億円)

(2) 学校給食・食育総合推進事業 (0.9億円)

四 教育課程の充実、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進 (25億円)

(1) 次代を見据えた教育課程・指導方法に関する先導的研究開発 (0.7億円)

(2) 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進(新規) (0.8億円)

(3) 理数教育の充実のための総合的な支援等 (19億円)

(4) 小・中・高等学校を通じた英語教育強化 (3億円)

五 新時代に対応した高等学校改革の推進 (8.6億円)

(1) 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (3億円)

(2) マイスター・ハイスクール(次世代地域産業人材育成刷新事業) (3億円)

(3) WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 (2億円)

六

幼児期及び幼保小接続期の教育の質的向上

(23億円)

(1)「幼保小の架け橋プログラム」の実施

(52億円)

(2)幼児教育の質の向上を支える自治体への支援

(3億円)

(3)幼児教育の質を支える教育環境の整備

(15億円)

七 教育相談体制等の充実によるいじめ、不登校対策の推進

(86億円)

(1) 専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携強化等 (85億円)

① スクールカウンセラーの配置充実(補助率1/3)

・ スクールカウンセラーの全公立小中学校への配置 (27500校)

・ いじめ、不登校対策のための重点配置 (2900校)

・ 貧困対策のための重点配置 (2300校)

・ 虐待対策のための重点配置 (2000校)

② スクールソーシャルワーカーの配置充実(補助率1/3)

・ 全中学校区への配置 (10000中学校区)

・ いじめ、不登校対策のための重点配置 (3000校)

・ 貧困対策のための重点配置 (3500校)

・ 虐待対策のための重点配置 (2500校)

八 切れ目のない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実

(41億円)

(1) 医療的ケアが必要な児童生徒等への支援

◆ 医療的ケア看護職員配置(拡充) (33億円)

(2) ICTを活用した障害のある児童生徒等への支援 (39億円)

◆ 教科書デジタルデータを活用した拡大教科書、音声教材

九 等普及促進プロジェクト(拡充)

道徳教育の充実

(26億円)

(1) 道徳教育アーカイブの充実

(2) 学校や地域等が抱える課題に応じた取組の支援

(27億円)

(3) 道徳科の教科書の無償給与

十 子供の体験活動の推進

(39億円)

十一 キャリア教育・職業教育の充実

(11億円)

(1) 将来の在り方・生き方を主体的に考えられる若者を育むキャリア教育推進事業 (27億円)

(2) マイスター・ハイスクール(次世代地域産業人材育成刷新事業) (25億円)

十二 学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進等

(1) 教育相談の充実 (29億円)

(2) 要保護児童生徒援助費補助 (23億円)

十三 高校生等への修学支援

(1) 高等学校等就学支援金交付金等 (4305億円)

(2) 高校生等奨学給付金(奨学のための給付金) (4130億円)

(3) 高等学校等修学支援事業費補助金 (148億円)

〔令和5年度東日本大震災復興特別会計予算(案)〕

(初等中等教育局関係)

1、児童生徒等の心のケアや教育支援等

・ 緊急スクールカウンセラー等活用事業 (16億円)

・ 被災児童生徒に対する学習支援等のための教職員加配 (12億円)

2、就学支援 (8億円)



## 福利厚生情報

生涯福祉部長 岡野 仁司

## 今後の公的年金制度は

どうなるか

総務省統計局の調査によると、令和3年9月15日現在で我が国の人口は1億2522万人と前年より51万人の減少である。また、65歳以上の高齢者人口は、3640万人と前年より22万人増え、総人口に占める割合は29・1%と過去最高となっている。

この状態で推移すると、老後の生活保障の中核的存在である公的年金制度は年金受給者が増え、それを支える現役世代が減少するので将来の年金制度は破綻するのではないかと心配する声も出ている。

## 最近の状況

年金が3年ぶりに増額か！  
実質0.6%目減り

厚生労働省は1月20日、2023年度の公的年金の支給額を発表した。

物価や賃金上昇を踏まえ、2023年度に、67歳以下になる人は23%、68歳以上になる人は前年比19%のプラス改定とする。年金の給付を抑える「マクロ経済スライド」を3年ぶりに発動するため、公的年金の支給額の伸び率は物価などの上昇率に追い付かず、実質的に0.6%の目減りとなる。

6月に支給する4月分から反映される。プラス改定は3年ぶりとなる。

厚生労働省の試算によると、67歳以下の国民年金（満額）は月額6万6250円（前年比1434円増）、厚生年金は夫婦2人の標準的な世帯で月額4880円増となる。

「マクロ経済スライド」は年金財政の破綻を防ぐ目的で20

04年に導入された。

毎年度これを発動して2023年度に終了する想定だったが、デフレ局面が続いたために、これまで3回しか発動されていない。

公的年金制度が破綻すれば国は高齢者の生活を維持するため、巨額の生活保護費を全額国庫負担（税金）で負担しなければならぬ。これに対し、公的年金は加入者、企業からの年金保険料と国庫負担金双方で賄われているため、国の負担は少なく済む制度になっている。

年金制度は息の長い制度であり、長期的に年金原資が枯渇しないように積立金を国債や国内外の株式に投資して運用し、運用益は現在と将来の年金給付に当てられる。

厚生年金の適用拡大については、平成28年度の改正で社員501人以上の企業で働く短期間労働

者への適用を拡大し、さらに令和2年の改正で段階的に50人以上へ拡大するなど、保険収入増を図ることにしている。

## 今後の公的年金制度

短期間労働者に対する被用者保険の適用を拡大する。

定年の延長に伴う就労期の延長による年金水準の確保・充実・高齢期の就労と年金受給の在り方（在職老齢年金制度の見直し）など時代にあった制度とする観点から検討されている。

令和2年の改正で年金の受給時期の選択肢の拡大が行われて、これまでの60歳から70歳を75歳まで選べるようになった他、65歳以上の在職老齢年金について年金額を毎年定時に改定することや、60歳から64歳に支給される在職老齢年金の支給停止基準額が現行の28万円に引き上げられた。

## 教育振興の要望書を郵送

例年、全連退本部役員が衆参議員会館へ向出いて行う、文部科学委員会理事等の国会議員への教育振興・教育の日の制定に関する要望書提出を、今年もコロナ禍のため直接の手渡し・説明等ができないため、12月12日に郵送した。教育振興に関する要望内容は次のとおりである。

## 教育の振興に関する要望書

日頃から、教育の振興に対して心強いご支援をいただき感謝申し上げます。

次代を担う子供たちの健やかな成長は全ての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭に育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務で

す。

我が国は今、新型コロナウイルス感染症防止・ワクチン接種と社会・経済活動再生の渦中にある。全国各地の学校・教職員は、教育活動のさまざまな制限・中止等の中で頑張っている子供たちの不安や学習の遅れを取り戻し、全ての子供にきめ細かい指導を行き届かせようと取り組んでいます。

子供一人一人の学びを保障し令和の学校教育の充実・振興を図っていくためには、教育現場への迅速かつ大胆な財政支援、とりわけ「教員不足」の解消、優れた教職員の確保が不可欠であり、喫緊の課題です。

私たち全国連合退職校長会は、四十七都道府県の会員八万五千余名の総意として、下記事項を強く要望いたします。特段のご高配をお願い申し上げます。

## 要望事項

- 一 教育の機会均等と教育水準の維持・向上を図るため、義務教育制度の根幹を為す義務教育標準法、教科書無償給与制度等を堅持するとともに、義務教育費国庫負担率二分の一への早期復元に尽力されたい。
- 二 意欲と情熱のある優れた教職員を確保するため、人材確保法の趣旨や勤務実態調査等を踏まえた処遇の改善、並びに教員の養成・免許の取得・採用・研修体系の改善に尽力されたい。
- 三 令和の日本型学校教育の推進、学習指導要領の主旨の実現を図るため、第八次教職員定数改善計画を策定し、左記事項の実現に尽力されたい。
  - (1) 小学校高学年の教科担任制を推進するため、「英語」をはじめ各教科の専門性を有する教員の配置を促進すること。
  - (2) 「個別最適な学び、協働的な学び」の実現のため、中学校・高等学校においても少人数学級の計画的な整備を図ること。
  - (3) 一人一台学習端末機周辺のICT環境の整備を急ぎ、「オンライン学習」に必要なデジタル教科書や教材等の無償化を図ること。
  - (4) 発達障害等、特別な支援を必要とする児童生徒の能力・適性に応じた多様な学びの場を整備・充実すること。
  - 四 「学校における働き方改革」推進のため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教員業務支援員や学習指導員、部活動指導員等の配置を促進し、教員が本務に専念できる勤務環境の整備に尽力されたい。
  - 五 未だ復興途上にある東日本大震災・原発事故をはじめ、全国各地で続発している地震・豪雨等の自然災害で被災された地域の復興、教育環境正常化のため、迅速かつ積極的な支援に尽力されたい。

子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と  
学校における働き方改革の推進等を求める全国集会開かれる

令和4年11月14日、「子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と学校における働き方改革の推進等を求める」全国集会が、参議院議員会館で開かれた。今年も、新型コロナウイルス感染症予防のため出席人数が制限され、参加者総数は約100人だった。

文部科学省からは永岡桂子文科大臣、築和生副大臣、伊藤孝江政務官が出席、国会議員は自

子供たち一人一人に対するきめ細かな教育の実現と

学校における働き方改革の推進等を求めるアピール

次代を担う子供たちの健やかな成長は、すべての大人たちの願いです。子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭環境で育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務です。

すべての子供たちの学びを保障するには、学校の指導・運営体制の充実やICT教育環境の整備等、新しい時代の学びの環境整備を進めることが不可欠であり、小・中学校のみならず、高等学校、特別支援学校等のあらゆる学校の教育環境の改善を実現し、

より一層の良質な教育を子供たちに約束することが、私たち教育に携わる者の責務であります。

とりわけ、長時間勤務の実態やいわゆる「教員不足」の発生、採用倍率の低下など、教員を取り巻く環境は厳しい状況にあり、持続可能な学校の指導・運営体制の構築に向け、学校における働き方改革の推進をはじめとした教員を支える環境整備により、教職の魅力を上向きさせ、教員に優れた人材を確保することは急務となっております。

以上のことを踏まえ、私たちは日本のすべての人々に、次の事項の実現を強くアピールします。

一、ICTの効果的な活用を含むきめ細かな指導の充実、個別最適な学びと協働的な学びの実現及び次なる感染症等の緊急時においても、すべての子供たちの学びを保障するため、中学校・高等学校も含めた少人数学級の計画的な整備を図るとともに、教科指導の専門性を持った教員による小学校高学年の教科担任制の推進を図るための教職員定数の計画的な改善を行うこと。

一、教員が教員でなければできないことに全力投球できる環境の整備に向け、右の定数改善に加え、教員業務支援員をはじめとする支援スタッフを充実すること。また、いじめ、不登校などの深刻な状況を踏まえ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置やSNS等を活用した相談事業など教育相談体制を充実すること。

一、意欲と情熱をもって教育に取り組む優れた教員を確保する



ため、人材確保法の趣旨や今年度実施している勤務実態調査の結果等を踏まえた教員の処遇改善に努めるとともに、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、その根幹となる義務教育費国庫負担制度を堅持すること。また、地方財政を圧迫し、人材確保に支障が生じたり、地域間格差が生じたりすることのないよう、義務教育費国庫負担金及び地方交付税の財源確保を行うこと。

一、一人一台端末環境における本格的な教育活動が全国の学校で展開されている中、すべての子供たちの学びを保障し、より一層質の高い教育活動を実現するため、運用面への支援も含めた学校のICT環境の整備充実を進めること。

一、教育投資は未来の日本への先行投資であり、国の最重要事項であることから、右に掲げる諸方策の実現にあたっては、既存の教育予算の削減や付け替え等によるのではなく、計画的・安定的な財源確保を行うこと。

子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する

教育関係団体連絡会（教育関係23団体）

日本PTA全国協議会、日本教育会、全国市町村教育委員会連合会、全国都市教育長協議会、中核市教育長会、全国町村教育長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国公立小・中学校女性校長会、全国特別支援学校校長会、全国連合退職校長会、全国高等学校校長協会、全国公立学校教頭会、全国特別支援教育推進連盟、全国へき地教育研究連盟、日本連合教育会、全国養護教諭連絡協議会、全国公立小中学校事務職員研究会、全国学校栄養士協議会、日本教職員組合、全日本教職員連盟、日本高等学校教職員組合、全国教育管理職員団体協議会

令和四年十一月十四日

各地の会報紙より



埼玉県退職校長会

「会報」第174号

子どもたちと共に

所沢 遠藤 尚之

「ただいまっ！逆上がりっ出来たよっ」「今日のおやつ、何っ？」と帰ってくるなり元気のよい声が飛び交う。

「K君とケンカしちゃった」と、ぼそっと目を潤ませ伝えてくる子もいる。学校でもなく家庭でもない、ここは児童館、私の職場だ。

退職して9年。初任者指導を3年間、市立児童図書館長を1年間、市立児童館長として5年目。まだまだフルタイムで子どもたちと関わる仕事を続けている。

児童館という名前は知っていたが小学生の遊び場程度の認識だった。児童館に勤務して、理

解は一変する。

児童福祉法という児童は0歳から18歳までということを知っていたが改めて実感した。学校は学ぶところだったが児童館は遊ぶところ、遊びを通して育つ福祉施設、等々。

平日の午前中は未就園の0歳児から2歳児が母親と遊びに来る。土・日・祝日は父親と来ること多い。平日の放課後になると生活クラブ（所謂児童クラブ）に在籍している小学生が学校から帰ってくる。冒頭に記した子どもたちだ。

また、一般の小学生、中・高校生も遊びに来る。その他、出産前のプレママ・プレパパも来たり、高校卒業後にボランティアとして児童館に来たりする子もいる。児童館は誕生前から18歳を越えても切れ目なく利用できるのが園や学校と違うところだ。

子育て支援拠点であり、放課後児童支援施設でもあり、一般の児童も利用するという3つの機能を持つ当児童館は、四季に

応じ日々様々な活動を行っていた。活動は地域の組織や個人など多くの方々の応援を頂いて行っている。私はかつての経験を生かし、地域の小・中・高・大学をはじめ、自治会、更生保護女性会、母子愛育班、民生委員・主任児童委員、市保健センター、消防署、児童相談所等や、特技をお持ちの方々と連絡を密に地域連携を図ってきた。

コロナ禍の渦中である。時間・人数等の諸制限や換気・消毒等の環境整備を強いられている日々だが、子どもをまん中にして地域とつながり、あつてよかった助かったと思われるような児童館を目指して、今、私は、子どもたちと共に、過ごしている。



岐阜県退職校長会

「彩雲」第199号

ノルディックウオーク

郡上市支部 蒲 敏裕

今シーズン、ノルディックウ

オークを始めた。スキー競技の陸上版といえる。ストックを両手に持ち、交互に地面をつきながら歩くのである。やってみると結構楽しい。

きっかけは、運動不足の解消と余暇の活用のために、公民館の講座に参加したことである。指導者の指示に従い、身長に合わせたストックの長さを調節し歩き始めた。やってみると、ストックをつく位置や歩幅、タイミング等、初めての経験のため、なかなかうまくいかず苦戦した。気を付けないと、ストックの動きと足がそろってしまふ。終わりに、近くの道路に出て、参加者全員で列になり歩くことになった。慣れてくるに従い周囲の景色も楽しめ、歩き終えるころには全身が温まり、程よい運動疲れが残った。

ノルディックウオークは、リズムをとりながら身体を安定させ楽しく歩くことができ、姿勢がよくなる、肩こりがとれる等々の利点がある。普通に歩くよりストックについて歩くことは

楽しい。始めて四か月、体力維持のため、毎日楽しく歩こうと思う。



鳥取県退職校長会会報

「積雲」第99号

退職土産

鳥取 木下 俊児

「先生、退職お疲れさまでした。」退職間近の三月末、挨拶回りを終え、「ふうーっ」と一息つきながら役場の出口に向かうとした時、背中越しに声をかけられました。驚いて振り返ると、そこには、上司・同僚と思われる五、六人の真ん中に、体格のいいスーツ姿の青年が、穏やかな笑顔で立っていました。

「僕を覚えておられますか。その節は大変お世話になりました。」私は思わず彼の名札を二度見してしまいました。すぐ、十数年前の彼の面影が、はっきりと甦ってきました。忘れもしません。彼は、当時私が勤務していた中学校の生徒

でした。暗く寂しげでとげとげしかった彼は、周りとの関わりを拒絶し、「この子はどんな大人になるんだろうか。」と教師としての自分の無力さを感じさせた生徒でした。その後の彼にどんな変化があったのか、どんな出会いがあったのかわかりませんが、幸せそうな今の姿に、子どもの可能性の素晴らしさと、憎越ながら教職の尊さを感じずにはいられませんでした。

喜びよりも、苦しみや悲しみの方が圧倒的に多かった教職三十八年の最後、教師冥利とは何かを考えさせてくれるとともに、何とも心地よい幸福感を与えてくれた彼との再会は、嬉しい「退職土産」になりました。



北海道退職校長会

「退職校長会たより」第240号

私の人生と川の流れ

室蘭支部 福川 喜行

私は、しばしば自分の人生は川の流れと同じだと思う。流

れ流れて大海に出る時が天命尽きる時と考えている。

まさに天任せである。方丈記冒頭の、淀みに浮かぶうたかたは：を借りて、私流の解釈で話を進めることにする。

川は常に時を刻み流れ、淀みができて時間も止まらない。この淀みは、人が何かと関わり、順調だったり、そうでなかったりして留まるひと時と、私は考へたい。

私事となるが、昨年2月に人間ドックを受け、腎癌と告知された。前立腺癌の経過観察中でもある、シヨックは大きかった。4月2日、術前の検査と手術の説明があり、手術が混んでいたので、入院日程等は後日連絡するとのことであった。

その日より、連絡のあった6月11日まで、2か月以上待ち続けた。待つ日々は、精神的に良くないことばかり、次から次へと考える時間の連続で、減入る日々であった。

とにかく、入院日6月24日、手術日28日となった。待ちくた

びれていたもので、既に完治したかのような嬉しさを覚えた。

手術も無事終え、もうすぐ術後1年を迎えることになる。それもまた私にとっては大きな喜びである。

しかし、私には、昨年2月から6月初旬までは、思いのうたかたが、次から次へと浮かんで、消えてしまう長い淀みの中、もがいていた時間のように思われた。

そして、術後は泡もすぐ消えぬ淀みの中で過ごし、淀みを出て心身ともに清らかな流れの中に身を委ねているような日々である。但し、二つの癌は未だ経過観察中である。

今後天命尽きるまで、順調な淀みの中で過ごす時間の多いことを願ってやまない8歳の私がいる。



香川県退職校長会

「会報」第30号

### コロナ禍の中で

さ東 白井 加代子

コロナ禍で出来た時間を利用して、少しずつ家の中を片付けています。納戸の片付けをしていると、梱包されたままの豆腐作りの道具が出て来ました。それは、亡くなった母が豆腐作りをしていたことを思い出して、20年余り前に購入したものです。「作ろう、作ろう。」と思いつから、忙しさにかまけて、いつしかその道具は、梱包されたまま台所から納戸へと片付けられ、長い間埃をかぶったままになっていたのです。

小学3年生の孫が、「すがたをかえる大豆」の音読をして、いた時期と重なったこともあって、再会した道具をそのままにしてはおけないの思いや母の味を再現したいの思いが増幅し、孫と一緒に豆腐作りに挑戦する



ことにしました。

一晩水にねかした大豆と水をミキサーに入れて粉碎し、こし袋に入れて、おからと豆乳に分けます。豆乳を鍋に入れて、弱火で焦がさないように煮、沸き立ったら火を消して、60℃位になった時に、そとにがりを入れ、静かに混ぜれば豆腐が出来ます。これを箱に入れて成形すれば四角い豆腐の完成です。

出来上がった豆腐は、母の味には遠く及びませんでした、母を身近に感じる事が出来て、とても幸せな気分になりました。コロナ禍のストレスを発散するためだけでなく、子どもや孫たち手づくり料理の味を伝えることができればと思つて、今日も台所に立っています。

秋田県退職校長会

「会報」第99号

### 「エンジン」のある生活

横手市 木村 哲弥

子どもの頃からエンジンで動





く機械が大好きで、バスに乗るといつも運転席のすぐ後ろに陣取り、運転の仕方をまねていました。

退職後は新しいことに挑戦しようと思いい立ち、すぐに運転免許を取得しました。大型二種やけん引などに加え、タンクローリーも運転できるようにと危険物取扱者乙4も。ただ、この年齢になると未経験ではなかなか仕事が見つかりません。それでも縁あって、冬期間は除雪ローダーを使って市の雪捨て場の管理を、夏はトラクターでトレーラーを引きながらホップの収穫など、この三年間は免許を生かした仕事ができています。

こうした生活をしていると、教員時代の子どもたちに出会うこともよくあります。あの頃小一だった方と同じ現場でローダーに乗って働いたことも。「木村さん、もつとこうした方がデコボコにならないど。」「少しはうまくなってきたな。」何しろ経験豊かな会社の先輩ですから、勉強になることばかりです。

かつて教えた人から教わることも新鮮です。

エンジンと言えば、若い頃夢中になっていたバイクへの思いを断ち切れず、中古の大型バイクを購入しました。のんびりと走りを楽しんでいますが、目的を持ちたいと思いい、道の駅巡りをしていきます。一回のツーリングごとに必ず道の駅を利用し、家にお土産をひとつ買って帰るのがルール。秋田県の全駅を制覇するまでは乗り続けたいと思っています。現在まで県内では28の駅に立ち寄り、残りは5つ。安全第一で目標達成を目指します。

まもなくエンジンの多くがEV等に取って代わります。今のうち心地よい鼓動を体で感じ取っておこうと心がけているこの頃です。



千葉県退職校長会

「会報」第91号

## 人はなぜ学ぶのか

市川 加藤 幸男

指導案作りで悩んでいた若い頃、フィールズ賞を受賞した数学者・広中平祐の著書「学問の発見」を繰り返し読んだ。その中で、「学生から勉強してもどうせ忘れてしまうものをなぜ苦労して勉強しなければならぬか」という質問を受けたとき、それは知恵をつけるためではないかと答えることにしている」という文言がある。また、広中は、この「知恵」について、「学ぶという中には知恵という、目には見えないが生きていく上に非常に大切なものがつくられていく。例えば、忘れたことをもう一度必要にせまられて取り戻そうとする時、一度も勉強したことのない、全然聞いたことも経験したことのない人と違って、時間をかければそのことを理解できることだってある」と述べている。それ以来、このことについて、私は、算数科の指導の中で具体的に事例を考えてみたいと思いいようになった。仮説として、学習過程の比較検討の場面において、それぞれの考え方

の根柢を認め合いながら、より演繹的な方法を導き出すような展開を充実させれば、「知恵」を育むことに近づくだらうと考えた。例えば、台形の公式などは、社会人になると忘れておる人が多いだらうし、記憶しておる必要もない。前述した「比較検討」の場面を充実させることによって忘れても、その解決方法を思い出すことができるであらう。つまり、公式を暗記するのではなくて、自分たちで演繹的な解決の仕方を考えだしたからである。そのような学習の積み重ねによって、「知恵」を育むことができると思いい今でも思っている。また、このような学習方法を経験した子どもは、自分自身の判断力(多様な人生を生き抜く選択の知恵である)と考える力を身に付けた社会人として成長していくだらう。子どもが学びたいという願いを叶えるためには、教師の自己研修が大切であることは、時代が変わっても同じである。

五反田だより (事務局)

老いも若きも持つているスマホの画面を見れば、すぐに自分とは違う場所とつながることができる。インターネットを介して見知らぬ人を遊び仲間にした

そんな私たちが本当に求めているものは、だれかの優しい言葉だったり、自分の劣等感を塗り替えてくれる何かだったりして、昔から人間が求めているものは、結局変わらないのではな

空がどんなに明るくても、街がどれだけ賑やかでも、自分の中には「どうせ」とか「自分な

◇1月

- 12 教育課題委員会
13 部長会
20 全日中理事會・WEB開催の為、勧誘案内を送付し、配布してもらう
26 文部科学省予算説明会のオンライン開催に代表者が出席する
27 やよい会に出席

◇2月

- 2 部長会
10 第四回常任理事会(雪の為に中止)
13 広報部会
16 全連小理事會に出席し、退職校長会への加入を勧め

◇3月

- 3 部長会
9 副会長会
17 部長会
20 広報部会
27 広報部会

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3~5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。

送り先 メール info@zenrentai.org
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

編集後記

寒さが厳しく各地が雪に悩まされた冬もようやく終わり、春の季節が訪れました。コロナ禍も収束に向かいつつあるようです。

教育情報として、文部科学省の令和5年度予算案関係の記事を掲載しました。文科省の重点施策が読み取れます。

各地の会報紙からの記事も多く転載させていただきました。ぜひご一読ください。今回も、皆様方のご協力で、原稿が予定通りの期日に集まりました。ありがとうございました。

全連退会報 (227号)

発行 令和5年3月15日
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八
全国連合退職校長会
電話 〇三三四四一八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
Eメール info@zenrentai.org
振替口座 〇〇一九一四四七二〇
責任者 入子 祐三
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三四三三三六二二

令和5年度の理事会及び総会の日が決まりました。
理事会 6月6日(火)
総会 6月7日(水)
会場 きゅりあん
(品川区総合区民会館)